

平成 30 年 1 月 26 日

継続的改善のための IR/IE セミナー2018 について（第 2 報）

主催：大学評価コンソーシアム

国立大学法人九州工業大学

九州大学基幹教育院 次世代型大学教育開発センター

※詳細なプログラムをご案内します。

1. はじめに

このたび「継続的改善のための IR/IE セミナー2018」を開催することになりましたのでご案内します。本セミナーは、大学評価コンソーシアム・国立大学法人九州工業大学・九州大学基幹教育院 次世代型大学教育開発センターが主催し開催するものです。

これまで大学評価コンソーシアムでは、九州大学基幹教育院次世代型大学教育開発センターほかのみなさまと協力し、我が国における内部質保証システムの構築に向けた議論を行うプラットフォームとして「継続的改善のための IR/IE セミナー」を過去 2 回、「IR 初級人材育成研修会」を 2 回（4 セッション）開催してきました。また、複数の大学にご協力いただき IR 担当者の情報交換、議論、協議の場として IR 実務担当者連絡会を既に 12 回開催してきました。

このたび「継続的改善のための IR/IE セミナー」については、夏期に開催する「大学評価・IR 担当者集会」に対して、春期の研修としてリニューアルします。

また、従来開催してきました「IR 実務担当者連絡会」につきましても、より実務担当者の研鑽や課題共有の場としての色合いを濃くした上で、本セミナーや夏期の大学評価・IR 担当者集会のセッションの 1 つとしても設定しつつ、年に 1 回は地方都市での開催を行うこととします。

今回の継続的改善のための IR/IE セミナーでは、3 つのセッションを用意しました。セッション 1 は、従来の IR 実務担当者連絡会に相当する IR 実務担当者セッションです。また、このセッションは会員の方のご報告をもとに議論を行うもので、ご報告いただく件数に応じて、パラレル方式や複数のサブセッションに分割されますのであらかじめご承知おきください。セッション 2 は、日本型 IR の課題とその解決に向けたセッションで、今回は、立ち上げが済んだものの、運営・運用に課題があり十分に機能していない IR オフィスの課題を考えていきます。講義や話題提供（事例紹介）とそれをもとにした議論を行います。対象となる IR オフィスのライフステージは立ち上げが済んでいるオフィスの方で、担当者の経験としては初級（概ね 1 年以上）から中級者の方です。セッション 3 は、これまでは IR 初級人材育成セミナーとして開催してきたもので、今回からはセッションの 1 つとして提供します。

このように「継続的改善のための IR/IE セミナー」は、評価、IR、質保証などを担う人材の育成を目指すセミナーであると同時に、参加者、運営者、主催者が共に作っていく勉強会です。お持ちの課題の解決を図りたい方や、我が国の高等教育を受けるすべての学生のために高等教育の改善について共に考えていきたい方など、年度末の慌ただしい時期かとは思いますが、皆様のご参加をお待ちしております。

2. 日時・会場・スケジュール

平成30年3月2日（金）9：30～16：30

九州工業大学 戸畑キャンパス

（北九州市戸畑区仙水町1-1）

<http://www.kyutech.ac.jp/information/map/tobata.html>

スケジュール・会場

セッション	会場	時間
[セッション1] IR実務担当者セッション	イノベーション推進機構 3階セミナー室	1a) 9：30～12：30 1b) 13：30～16：30
[セッション2] 日本型IRの課題とその解決に向けた セッション	MILAiS 南側講義室	2a) 9：30～12：20 2b) 13：30～16：30
[セッション3] IR初級人材育成研修セッション	インタラクティブ教育棟 インタラクティブ学習室	9：30～16：30

3. 実施するセッション

[セッション1] IR実務担当者セッション [定員：午前、午後それぞれ30名]

- ・従来開催してきました「IR実務担当者連絡会」を今回は、セッションの1つとして設定します。
- ・午前（9時半から12時半）、午後（13時半～16時半）の2つのセッションを設定します。
- ・会員の皆様からIRや評価の現場での事例や課題を報告いただき、報告に基づいて参加者全員で議論し、自大学での取り組みに対するヒントを得るとともにIRの知見の共有を図るセッションです。
- ・進行は、話題提供と質問感想票を活用した総合討論という形になります。
- ・午前、午後、それぞれお申し込みください（2つとも参加できますし、いずれか1つのみ参加することも可能です。）

<セッション1a/午前の部> 【IR実践を支える制度や技術】（9：30～12：30）

時間配分	概要	
9：30～9：35	趣旨説明	
9：35～10：50 （1報告：15分）	報告1 IR部署を機能させる規程制定に関する実践報告	○齋藤渉(東北学院大学) ○上畠洋佑(金沢大学) 荒木俊博(淑徳大学)
	報告2 大学を対象にした調査の現状把握と調査項目の整理－日本版コモンデータセットの開発を目指して－	○藤原僚平(福岡大学) ○荒木俊博(淑徳大学) 上畠洋佑(金沢大学)
	報告3 公開データの効率的なデータ変形	○鈴木達哉(山形大学)

	(Reshaping) について	
	報告4 IR レポート生成システムの構築と課題	○西出崇(京都外国語大学)
10:50-11:00	休憩・質問紙記入	
11:00-12:25	質疑応答・総合討論	
12:25-12:30	参加者アンケート記入(午前のみ参加者)	

<セッション1b/午後の部> 【データ分析・活用】(13:30-16:30)

時間配分	概要	
13:30-13:35	趣旨説明	
13:35-14:50 (1報告:15分)	報告5 国立大学法人運営交付金の重点支援において設定された評価指標(KPI)の分析	○押海圭一(大学共同利用機関法人 人間文化研究機構総合地球環境学研究所)
	報告6 AO・推薦入試での入学者が過半数を占める小規模私立大学における退学パターン	○原 迅(久留米工業大学)
	報告7 学術文献データを活用したIR:指標の位置づけ編	○山本 鈺(九州工業大学)
	報告8 指定国立大学と海外大学ベンチマーキング	○米澤彰純(東北大学)
14:50-15:00	休憩・質問紙記入	
15:00-16:25	質疑応答・総合討論	
16:25-16:30	参加者アンケート記入(午前・午後+午後のみ参加者)	

※報告内容の詳細は別紙(9-10ページ目)をご覧ください。

【スタッフ】○浅野(山形大)、藤原(山形大)、◎山本(九工大)、山本(明治大)ほか

[セッション2] 日本型IRの課題とその解決に向けたセッション [定員:概ね30名程度]

テーマ「IRオフィスを立ち上げてみたものの...」

対象ライフステージ(組織): IRオフィスは立ち上げ済みではあるものの、課題も多く、十分に円滑な運営ができていないと感じているオフィスの方など

対象レベル(個人): IRオフィスの運営やそこでの業務に従事される方。(実務経験が無い方はご遠慮ください。)

・IR オフィスは立ち上げてみたものの、なかなか軌道に乗せることができない大学が数多くあると聞きます。

・このセッションは、当初、午前・午後の通しでの開催の予定でしたが、午前のセッション（セッション 2a）のみの参加もできるようにします。

<セッション 2a/午前> (9:30-12:30)

IR の機能や課題に関する全国実態調査（本セッションのスタッフの橋本（四天王寺大）・白石（清泉女子大）が公益財団法人文教協会の助成を受けて実施）の設問ごとに、各大学の IR 担当者（本セッションスタッフ）がそれぞれ自大学の現状（事例）について報告し、全国実態調査の結果（速報値）との比較やそのデータをもとにした議論を行います。

時間配分	概要
9:30-9:35	趣旨説明
9:35-11:00	事例報告 ・IR の全国実態調査の設問ごとに、茨城、帯広畜産、神戸、佐賀、四天王寺、清泉女子、明治の各大学の IR 担当者が自大学の状況について報告します。その後、全国状況も報告します。
11:10-12:15	総合討論 ・報告の中で出てきた課題ごとに、どのように解決を考えて行けばよいかを各報告者と議論します。
12:15-12:20	アンケート記入（午前のみ参加者）

<セッション 2b/午後> (13:30-16:30)

時間配分	概要
13:30-13:40	趣旨説明
13:40-15:10	グループ討論 ・グループごとに課題（どのような点で IR が軌道に乗らないのか）について議論を行い、解決策を探ります。 ファシリテーター：畠田、土橋、末次、白石、橋本、岡部ほか
15:25-16:25	報告と討論 ・ファシリテーターをパネリストとした討論を行い課題の解決策を全体で考えます。
16:25-16:30	アンケート記入（午前・午後+午後のみ参加者）

※セッション 2b（午後）に出席される方は、ご自身の大学における IR の課題について A4・半分程度にまとめたものを 6 枚ご持参ください。課題については、IR 全国実態調査の問 5 を参考に記入ください（ご回答のコピー&ペーストでも結構です）。

（参考：問 5）IR 活動を全学的な視点で俯瞰すると、①調査・分析の設計 → ②データの収集・管理（分析前処理を含む） → ③分析 → ④報告 という流れがあります。IR 組織が関わって

る活動の中で、最も困っているものと、その具体的な内容を教えてください。

[選択肢] ①調査・分析の設計 ②データの収集・管理 ③分析 ④報告 ⑤その他

[自由記述] 選択したものについて、困っている内容を具体的にお書きください。

【スタッフ】岡部（帯広畜産大）、○畠田（茨城大）、末次（佐賀大）、白石（清泉女子大）、土橋（神戸大）、橋本（四天王寺大）、藤原将（立命館大）、山本（明治大）ほか

[セッション3] IR 初級人材育成研修セッション（初級者向け）[定員：30名]

テーマ「IR データの管理と分析活用」

対象者：IR に従事して1年程度までの方（実務経験が少ない方）。

○ ルーブリック（初級）における目標：

知識・能力等		水準	
能力等/ 段階の目安	収集	整理	入手したデータをオフィス内で再利用可能な形で整理して保管することができる
	分析	数量データ解析	数量的なデータを集計したり、グラフを作成することができる。
		解釈	傾向や現状を概ね説明することができる。
	活用支援 (レポーティング)		指示を受けた表やグラフや報告書を提供できる。

・IR 担当者は、データ分析を行うだけでなく、依頼者の問いに応じてその結果を分かりやすく示すとともに、意思決定に繋がるような情報提供（レポート）が求められます。

・本セッションでは、IR 担当者（初級）がデータ分析や活用を行う際の注意点や課題、具体的な方法等について、講義や演習を通じて学んでいただきます。

・なお、第1部（講義）と第2部（演習）に分けて行いますが、両方の参加が条件となります（どちらか片方だけの参加は出来ません）。

<セッション3/第1部>（9：30－12：20）

・第1部（講義）では、情報支援サークルの概念を踏まえ、IR 活動における報告のプロセスや効果的なコミュニケーションの方法等について説明します。また、分析を効果的・効率的に行うために必要とされるデータマネジメントの一環として、データの前処理や統合、可視化、管理等についても説明します。

時限	科目	担当	内容
9:30-10:20	趣旨説明 講義1：概論	小湊	分析レポートの依頼者と IR 担当者とのコミュニケーションの重要性に軸を置き、どのような報告が効果的かといった観点から課題を整理します。
10:30-11:20	講義2：データマネジメントと分析	大野	収集したデータを整形し、決められたルールに基づき、データを保有する「データマネジメント」について触れるとともに、データ活用の実際を取り上げます。
11:35-12:20	質疑応答		

<セッション3/第2部> (13:20-16:30)

・第2部(演習)では、グループに分かれ架空のケースを扱いながら、レポート作成演習を行います(ケーススタディ)。最後に、グループ毎にまとめたレポートを簡単にご報告いただき、全体で共有を図ります。

時限	科目	担当	内容
13:20-16:25	演習：データ分析と解釈・レポート作成	大野 小湊 関 藤井	架空の事例(ケース)に基づいた、課題の理解、データの分析・解釈とレポート作成に関するワークショップを行います。演習の流れは、以下のとおりです。
16:25-16:30	参加者アンケート記入		

■演習の流れ

【前提】

- ◇参加者のみなさんは、架空大学のIRオフィスのスタッフです。
- ◇IRオフィスでは、学長からの依頼事項を検討し、調査のデザインを行いました。その結果、当該学部の副学部長との聞き取り調査を実施し、関連するデータについても収集済みです。
- ◇IRオフィスとして、データ分析を踏まえ、学長に報告しなければなりません。

1) 課題の理解

- ・聞き取り調査結果及び関連データを踏まえ、報告レポートに取り上げる事項を2~3個考えます(個人ワーク)。
- ・各人が考えた事項を基に、班で報告レポートのテーマ(問い)を設定します。その際、依頼者(学長)の要求を満たすものなのかどうかをメンバーと検討します(グループワーク)。

2) データの分析・解釈

- ・班で決めたテーマに関して、レポートに使用するデータを選んだ根拠や収集されたデータに基づく報告レポートの作成イメージを考えます(個人ワーク)。
- ・各人が考えた内容を基に、班でデータ分析を行い、収集されたデータの限界(より充実したレポート作成のために必要とされるデータ)等についても議論する(グループワーク)。

3) レポート作成

- ・データの分析・解釈に関する班の検討結果を踏まえ、報告するレポートを作成します。

4) 情報共有

- ・作成したレポートに基づき、班ごとに報告を行い、全体で情報共有します。

【スタッフ】大野(鳥取大)、○小湊(九州大)、関(新潟大)、藤井(九州大)ほか

4. 各セッションの詳細な内容および資料について

・資料は2月28日(水)12時まで公開します。(この時間を過ぎてもURL等の連絡がない場合、お手数ですが、お問い合わせください。メールサーバの相性で不達が発生する場合があります。)

・web公開が間に合わなかった資料については、当日、印刷物で配布します。

5. 参加費について

- ・参加費は徴収しません。

6. 参加申し込み方法

- ・すべてのセッションの参加受付は大学評価コンソーシアムの web サイトからからお申し込みください（共同主催校関係者を除く）。平成 30 年 2 月 1 日（木）13 時から受付を開始します。

<http://iir.ibaraki.ac.jp/jcache/index.php?page=member>

（会員ではない方は、参加者整理の都合上、大学評価コンソーシアム [会費無料] への会員登録を行ってからお申し込みください。個人単位での入会が可能です。）

7. 問い合わせ先

※メールの場合は、次のアドレス（スタッフメーリングリスト）をお願いします。

iries@ml.ibaraki.ac.jp

○ セッション 1（IR 実務）に関すること

山形大学 学術研究院 教授 浅野 茂

電話：023-628-4189

○ 全般的なことおよびセッション 2（日本型 IR の課題）に関すること

茨城大学 全学教育機構 総合教育企画部門 准教授 畷田 敏行

電話：029-228-8252（AP 事業室）

○ セッション 3（IR 初級）に関すること

九州大学 基幹教育院 次世代型大学教育開発センター 准教授 小湊 卓夫

電話：092-802-5835

○ 会場に関すること

九州工業大学 インスティテューショナル・リサーチ室 山本 鉦

電話：093-884-3516

8. 開催について

本セミナーの開催には、以下の経費を用いております。また一部スタッフについては、所属校の経費で参加しております。記して謝意を述べさせていただきます。

文部科学省教育関係共同利用拠点 次世代型大学教育開発拠点（九州大学 基幹教育院 次世代型教育開発センター）



九州大学
基幹教育院

平成27年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金）基盤研究（B）
「大学の評価・IR機能の高度化のための実践知の収集・分析とその活用に関する研究」（課題番号：15H03469、研究代表者：畠田敏行）



・平成29年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金）基盤研究（C）
「IRを活かす学内データ管理に関する研究：統合型データベース構築への第一歩として」（課題番号：17K04603、研究代表者：藤原宏司）

別紙

セッション 1a (午前)・報告概要

ID	タイトル	概要	報告者 ○は、当日発表者
1	IR 部署を機能させる 規程制定に関する実 践報告	IR 部署設立時には、IR 人材の採用や配置、学内での組織のあり方について議論や検討されることが中心で、IR 部署の規程は他大学の規程に倣い制定してしまうことが多い。本発表では、内部質保証に関する規程と IR 部署規程間の条項を有機的に繋げることにより、IR 部署を実質的に機能させることを目指した実践とその成果について報告する。本報告を通して、自大学にあった適切な IR 部署の規程の制定や改正について議論を行いたい。	○齋藤渉(東北学院大学) ○上島洋佑(金沢大学) 荒木俊博(淑徳大学)
2	大学を対象にした調査の現状把握と調査項目の整理－日本版 コモンデータセット の開発を目指して－	大学等に対する調査は、文科省による調査、マスメディアによる調査、高等教育研究者・機関による調査等がある。本研究では、特にマスメディアによる調査に着目し、調査間の共通項目を整理する。そのうえで、日本におけるコモンデータセットの開発可能性を探る。(本研究では、マスメディアによる調査に着目し、学校基本調査や大学ポートレート結果の活用による調査回答の効率化を目指すことを目的とする。)	○藤原僚平(福岡大学) ○荒木俊博(淑徳大学) 上島洋佑(金沢大学)
3	公開データの効率的なデータ変形 (Reshaping) について	公開データを BI ツールなどのデータ分析ツールを活用して可視化するためには、データマネジメントが不可欠である。中でも、Reshaping と呼ばれるデータ形式の変形技術は、特に重要だと考えられる。本発表では、Microsoft Excel 2016 付属の「クエリエディタ」を用いて、具体的かつ効率的なデータ変形の方法を紹介する。	○鈴木達哉(山形大学)
4	IR レポート生成システムの構築と課題	京都外国語大学では IR に関する様々な取り組みを進めているが、その一環として各種データを自動的に収集し、必要に応じて定型的なレポートを生成するシステムを構築している。本報告では、この「IR システム」の概要、システム構築上の課題、および自動生成レポートの利用状況と組織的課題等について報告する。	西出崇(京都外国語大学)

セッション 1b (午後)・報告概要

ID	タイトル	概要	報告者 ○は、当日発表者
5	国立大学法人運営交付金の重点支援において設定された評価指標 (KPI) の分析	第3期中期目標・中期計画期間から、各国立大学法人の機能強化の3つの枠組みが導入された。その達成状況を判断するために「評価指標 (KPI)」の設定と提出が求められ、平成28年度に国立大学86校から298の戦略に対して、全部で2033の指標が設定・提出された。それらの指標について、ロジックモデル上の位置付け、定量・定性、戦略の類型毎の特徴などの観点から分析を行う。	○押海圭一(大学共同利用機関法人 人間文化研究機構総合地球環境学研究所)
6	AO・推薦入試での入学者が過半数を占める小規模私立大学における退学パターン	報告者の所属する久留米工業大学では、近年AO・推薦入試での入学者が過半数を占めているが、工学部の教育課程に耐えうる学力と志を持った学生をバランス良く獲得しているとは言い難く、授業についていけずに学習意欲を失って中途退学をしてしまう学生も存在する。本報告では、そのような中途退学の未然防止が喫緊の課題であり、同時に学内に分析ができるデータも限られているケースを持つ小規模私立大学において、退学パターンの分析手法に関しての考察を報告する。	原 迅(久留米工業大学)
7	学術文献データを活用したIR:指標の位置づけ編	研究力分析において、論文数や被引用数などの指標が活用されることは多い、また、正確かつ効率的な評価の実施を目的に、これらの値を共著者数で割る、あるいは分野間で補正する、といった加工が施された指標も幾つか提案されている。前者と後者の指標の違いを理解すべく、二つの軸を設定して指標の位置づけを行ったので、その妥当性について議論したい。併せて、研究力評価と、研究業績評価を行う場合で、必要なデータセットがどのように異なるかについても議論を行いたい。	○山本 鈺(九州工業大学)
8	指定国立大学と海外大学ベンチマーキング	東北大学は、第三期中期目標・中期計画期間中の指定国立大学に指定された。申請にあたっては、「世界の有力大学に伍」していくとの観点から、海外大学とのベンチマーキングを活用し、目標を設定することが求められた。本発表では、このベンチマーク作業に、IR関係者・部署がどのような形でかかわり、どのような成果を上げることができたかを紹介する。	○米澤彰純(東北大学)